

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700058		
法人名	株式会社ケアトピック		
事業所名	グループホームきりん		
所在地	岐阜県高山市新宮町791-1		
自己評価作成日	平成25年12月18日	評価結果市町村受理日	平成26年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2192700058-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307
訪問調査日	平成26年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームきりんでは、認知症の人のために、くもんの学習療法を週5日取り組んでおり、認知症の予防・改善に努めています。また社会貢献としてのスクールサポートへの参加をして、地域の方々とのつながりを持ち、日々の暮らしに生きがいや張り合いを持てるような支援をしています。ご家族に、日々の生活の状態や暮らし方を伝えて、情報の共有を図っています。今年度は、排泄ケアに力を入れており、1人1人のリズムを把握し、個別ケアに力を入れています。また生きがいを持って頂ける暮らし方について、ご家族や本人から聞き取りを行い、馴染みの場所に行ったり、行事への参加、企画なども行い、日々の暮らしに生きがいや楽しみを持てる生活支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10か月を迎える新設のホームである。母体喜林グループの理念「優しさ」と「愛」のある介護、「生き甲斐を持って頂ける環境」を念頭に置き、笑って過ごせる家庭的で和気あいあいのホームを目指している。南側の大きな窓からは、目の前に広がる四季折々の景色を絵画のように楽しむことが出来る。家族や地域にホームを知ってもらいたいとの思いから、積極的に働きかけ、運営推進会議には市担当者や地域の人はもちろん全家族の出席がある。利用者の自立支援に向けてチームで目標を決め、成果をグループ全体で発表する取り組みを行っている。支援の共有ができ、職員の質の向上と共にやりがいにも繋がっている。同一敷地内に高齢者住宅とデイサービスが併設されて協力関係も出来、利用者と家族が安心して穏やかな暮らしの中にいることを実感させてくれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念を元にして、地域密着型施設としての事業所理念を設定している。	喜林の経営理念の元、「優しさ」と「愛」のある介護を目指し、地域の中で生き甲斐ある暮らしの環境を作り上げる理念を設定している。理念は職員がいつでも見れる場所に掲げられ、日々のケアに繋げている	介護の原点に立ち戻れるような、グループホーム独自の理念を全職員で話し合っ作り上げていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校の見守りや声掛け(スクールサポート)を行なっている。また祭礼や小学校で行われた運動会を観に行き交流を図った。	自治会に加入し地域の行事に積極的に参加したり、小学校の運動会への参加、祭りのとき獅子舞が立ち寄ってくれるなど、行ったり来たりの関係が出来つつある。交通見守りを通して、子供達との交流も始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の町内会長や副町内会長、また地域の長寿会の方に声を掛け、運営推進会議を通し、地域の方に認知症とはどのようなものなのかを理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、2か月に1回開催しており、入居者(全 員)やご家族、行政・町内会長・長寿会の方に来て頂いている。そこで、活動状況の報告を主にしている。ご家族同士の交流も増えている。	開設1年目の為、まずはホームの様子を家族や地域の方に知ってもらいたいとの思いから、行事の時に声かけし多くの参加が出来るようにしている。状況報告を行うと共に、参加者からの意見を大切に受け止めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者へ活動状況の報告などを行なっている。また事業所の課題について意見や助言などを頂いている。	運営推進会議には毎回市担当者の出席があり、事業所の現状を理解してもらい、相談に乗ってもらっている。日頃から連絡を取り合い協力関係を築いている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束を緊急やむを得ない場合を除き、しないと書いてあり、身体拘束はしていない。また玄関の施錠などもしないようになっている。	施錠を含め身体拘束は行わない方針をたて、玄関に鍵はかけず、利用者が外出したいときには職員が付き添っている。併設施設及び地域とも連携を図り、利用者の自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごすことがないように、マニュアルを作成、事業所内で実際に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者1名が入居してみえ、関係者が来所され話し合いを行った。今後は職員の研修を必要とし実施する予定をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約に、重要事項説明書等で詳しく説明・了承を得て契約をしている。質問や疑問などに対し説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や電話連絡などで出た要望に対してお聴きして要望に応えている。	毎日のように家族の面会があり、その時に意見を聞くようにしている。家族からの何気ない意見にも速やかに対応し、事業所がよりステップアップできるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回グループホームの中で会議を行い、話し合う機会を持ったり、代表者がグループホームに来て職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	日頃の現場や、個別に出された意見や提案を会議で話し合っている。具体的な業務マニュアルを作してほしいとの職員の意見から日々の時間割を作成し、よりよいケアの実践に繋がった例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所ごとの課題に対して取り組むチーム活動を行っており、年2回の発表会后、取り組みを投票、採点し、表彰をしている。外部研修後の社内勉強会を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、内外の研修の機会を確保し、研修を行なっている。また研修を受けた職員が事業所内で学んできたことを報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に一回行われる計画作成担当者が集まるケアマネ会議に参加して、情報交換と勉強会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査等を行い、困っていることや不安なこと・要望がないかなど聞いたり、本人が安心できるような言葉かけを行い、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に訪問調査等を行い、困っていることや不安なこと・要望などを聞き、相談、話し合いを行なったうえで、暫定ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師の診断書、ケアマネ意見書等により、必要とされる支援を見極め、暫定プランを立て対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において家事全般、時には一緒に温泉へ行ったりと、共に生活して暮らしているという生活作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にご要望やご意見を頂き、内容はケアプランに反映している。ご本人の様子については、お伝えしている。又、受診、理髪、外泊等は家族に協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	お墓参りや実家に行く、地元の祭礼、通いなれたデイサービスに散歩がてら遊びに行き、馴染みの入居者や職員と会話をされたり、親戚や友人の面会があったり、これまでの関係が途切れないうにしている。	家族と共に利用者のこれまでの生活背景を共有し、馴染みの人や場所との関係が続くよう支援している。何気ない日常の会話から墓参りの希望を聞き、出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然にリビングに集まり、気の合う仲間同士で会話を楽しまれている。また状況に応じて会話の中に入り、語らいの場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も困らない様に入居される施設には、ケアマネ意見書、又、担当になる職員の方には情報を伝えており、いつでも相談して頂ける関係は作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を大切に、その人らしい暮らしが継続でき、生きがいを持てる暮らしが出来る様に職員は情報を共有しケアにのぞんでいる。	ふとしたつづやきから願いを探り伴侶の仏前にお参りしたり、思い出の場所での生きいきとした様子から思いを汲み取るなど、「共に暮らす」中での触れ合いを通して得られる気づきを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前事前訪問にて生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などを本人及び家族から聞き取り、多くのアセスメントを行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜間の様子を生活記録に記載して、次の日の職員が出動してきたら生活記録を読むことで現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のグループホーム内の会議で支援の方法を職員同士で話し合ったり、往診医の指示や助言を頂き、ケアプランを作成している。	入居者の生い立ちから現在に至るまでの生活背景を理解した上で、担当者がそれぞれに集めた情報を出し合い、月1回の会議に参画している。モニタリング結果を支援に活かす為、記録も含め具体的に検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や結果、気づきや工夫を個別に記入し、職員間で情報を共有、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスに通ってみえた方で馴染みの利用者や職員に会いに散歩を兼ねて、遊びに行っている。また、隣接する施設で行われるイベントに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スクールサポートを行い、地域の方々と話す機会を持ち、意欲的に行かれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人の体調を職員が観察したり、本人や家族の思いを聞きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調を崩した入居者を職員がかかりつけ医に搬送する場に遭遇した。情報記録を基に確認しあい、途中経過の連絡も適切にされていた。ホーム協力医の往診が毎月あり、日常の健康管理は看護職員が留意している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員が2名いるのだが、その内の1名とは、24時間連絡体制が取れるようにし、入居者の体調の変化などには指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回往診医に往診に来て頂き、看護師が対応して、相談をしたり情報を頂いている。また入居者の情報を病院関係者に連絡し、関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針は、契約時にご家族に説明・承諾を頂いている。実際に重度化した事例はないのですが、本人やご家族の希望を踏まえて、往診医や看護師、職員と協力して支援していく。	入居時「重度化した場合の対応に係る指針」を示し、本人・家族の意向を確認している。今後必要とされる看取り支援については、グリーフケアも含めて、職員研修や受け入れ体制の準備等を考えたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に誰に連絡をするか、救急隊員に渡す緊急時カードを事務所机に入れている。応急手当や初期対応の訓練はまだ行っていないが、今後は訓練を行うようにする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中に火災や地震を避難訓練を実施している。また夜間を想定した避難訓練を実施、夜勤者が参加した。	個室のカーテンは防災素材であり、台所はIH使用でガス漏れの心配はない。災害時の緊急連絡は、隣接のホームの勤務者と互いに行うよう取り決めている。備蓄品はどんな物がどの位必要かを検討中である。	訓練実施記録には問題点・課題・参加者の感想も記入し、それを基に全職員で見直しをされるよう期待したい。防寒対策も含めて、備蓄は緊急事項として優先的に整備されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉をかける時に誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけの時のマニュアルを作成、実際に取り組んでいる。	食事中トイレに間に合わなかった隣席の入居者に、職員がさりげなく対応し、素早く退席して行かれた。日頃の接遇の仕方を垣間見る場面であった。入浴介助は出来れば同性でと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示や命令をせずに、確認する言葉かけを忘れず、本人に決めて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先に確認しながら、一人一人のリズムで暮らして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こまめに衣替えをし、入浴時には、衣類を本人と選び、四季を考えたおしゃれとTPOを考えたおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は外部から食材を仕入れてはいるが、月4回食材は旬の物や食べたい物(誕生日メニュー)と一緒に調理して同じ物を職員が食べている。また一緒に食事の片づけもしている。	ビニールのエプロンは使わず、利用者が自立してそれぞれの速度で食べ終え、完食された人が多い。地域の野菜を採り入れ、食べ慣れた懐かしい味は入居者を楽しませ、健康に繋がる考え方の支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝にクリクラの水、毎食事、10時や15時の水分補給を通して、水分を摂って頂いている。また外部から食材を仕入れているが、管理栄養士が考えたメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の資格を持った職員がおり、職員の指導のもと、毎食後一人一人誘導をして口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	3月に開設し、当時は布パンツ1名、紙パンツ7名、紙おむつ1名でしたが、今現在は布パンツ5名、紙パンツは4名みえる。排泄のパターンを知り、トイレ誘導を行なっている。	排泄の自立は生きる意欲と自信に繋がり、人間の尊厳の源として大切にしている。失敗する事があっても、尊厳を損ねない排泄の状態を目指して支援を重ね、アセスメントとモニタリングを積み重ね効果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝1番にお水を飲んで頂いたり、便秘気味な方には、プルーンやヤクルト、野菜ジュースを飲んで頂いている。また毎日の居室掃除でトイレの便座の汚れで排泄の汚れをカレンダーに記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回であるが、本人の好みの湯加減、入浴時間とし柔軟な対応をしている。浴槽の環境を工夫しながら入居者が安心して入浴を楽しんで頂ける支援をしている。	脱衣場は床暖房が施され、寒さの中で衣服を脱ぐ事への抵抗感を和らげている。三方から介助出来る浴槽への移動は安全な配慮が充分図られ、入浴を好ましいものになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝など、休む時間を設けている。ご自由に居室で休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬で追加の薬が出た場合は、申し送りノートに記入して、全職員が把握できるようにしている。また個別の薬の情報はカルテに載せている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭き、掃除、洗濯物畳み、散歩、料理などその方に合った仕事を提供している。裁縫や塗り絵、くもんの学習療法などに取り組まれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム周辺の散歩に出掛けたり、買い物・ドライブに行っている。また「家に帰りたい。」と言うその方の思いが叶えられるように、家族と連絡を取り、実家に帰り、仏壇やご両親の墓参りをした。	このホームでは外出支援を日常生活の一環として捉え、入居者の要望に応じている。支援の中から出る何気ない言葉や表情を通して、一人ひとりの理解を深めようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解、話し会いにより、自分でお金を管理している方もあり、自分のお金での買い物や支払いを行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設では携帯を許可しており、持参してみえる方もあり、自分で電話をしてみえるが、時として、使い方が分からなくなる時は、支援をしている。また他の方についても、電話の希望がある時は取りついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家風の趣きのある建物にて窓よりは、アルプスの山々を望み、季節を肌で感じる事が出来る。入居者と職員が共に作った作品を飾ったり、写真を飾ったりして、居心地良く過ごす工夫をしている。	玄関を入ると広い廊下を挟んで居間・台所・トイレ・浴室・個室が続き、その先は非常口で、曲がり角はなく解り易い。天窓からの光が穏やかで、広い居間に続く和室には大きな炬燵と仏壇が置かれ、和らぎを添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが主に生活空間になっていますが、それぞれが好きな場所で過ごし、共に楽しむ時、1人で過ごしたい時とそれぞれがその時々、好きな時に自由に暮らせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂いたり、写真やご自分で作られたゴミ箱や使い慣れた机などを持ち込んで、居室が入居者にとって落ち着く空間になっている。	洗面台・トイレ・作り付けの収納家具が設置され、安全に配慮されている。使い慣れた寝具や小箆箆・家族の写真等を持ち込み、心地良くその人らしい雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は平屋の造りになっており、段差はなく、転倒の危険性はない造りになっている。また居室や洗濯場、浴室やトイレと部屋数は最低限にしており、分かりやすい造りになっている。		